

春になり花が咲き始めると、こどもの園の子供たちはよく、幼稚園に家の庭から花をつんできてくれます。「小人さんのところに飾ってね」と、その小さな花束のかわいいこと。外遊びでは、たんぽぽで冠を編んだり、茎で笛を作ったり、野花の甘い蜜を美味しくそうにすったり、花びらを集めてお鍋に入れて料理をしたり…。咲き終わって地面に落ちた花びらさえも大切に拾い集めます。園庭の姫りんごの木には、淡いピンク色の花がたくさん咲きました。子供たちは自然からの贈り物を全身で感じながら喜んで遊び、そして花たちを愛でています。(兼近)

演奏をすること

音楽を演奏する上での楽しみ方は、人それぞれです。音楽も好きで、演奏することも好きだけれど、人前で演奏するのは苦手だ、嫌いだ、という人もいることでしょう。

私は、ここに来る以前は演奏家として生活をしていましたが、幼少の頃は、大勢の友達と外で遊ぶよりも、家で黙々と積み木やブロックを組み立てているのが好きな、すごく静かな子供でした。そのため、人の前に立って注目を浴びるようなことも、活発な遊びもあまり好きではありませんでした。

そんな私が人と関わることを好きになれたのは、音楽を通して、自分を表現する喜びを味わうことができるようになっていったからなのではないかと最近考えるようになりました。

もともと静かな幼少時代を送っていたような私にとって、普段言葉で自分をあまり表現しないかわりに、何年かに1回訪れる発表会で、かわいいドレスを着て一生懸命演奏し、それをみんなに褒めてもらうということが、とても嬉しかったのだと思います。

社交的になっていった中学・高校時代も、友達と楽しく過ごしていましたが、人の目が気になっているような、いつもどこか自信のないところがありました。しかし、当時入っていたジュニアオーケストラの仲間たちと一緒に、大きなホールの中を自分達の音楽で満たすこと、更にそれを誰かに喜んでもらえることは、私の心からの喜びでした。そういう喜びの小さな積み重ねから、人と関わるのが好きな今の私がつくられていったのかもしれない。

もし、本当にそのようにして、人の前で演奏をする喜びを知ることで、自分自身が変わっていくことができたのだとしたら、それは一体なぜか、

どういうことだろうか、と考えました。

その明確な答えは出ないけれど、自分を表現することを通して、人と繋がりを持てたような気がしたのではないかと考えています。

私にとって音楽は、自分を表現することができるひとつの居場所のようなもので、自分の演奏を聴いてくれていた誰かに、自分の伝えたいなにかが届くとき、その人と分かり合えたような、自分を認めもらえたような感じがしていたのかもしれませんが。そしてそのことが、自分の1つの自信になったのだと思います。

演奏することは、人との対話と同じです。人に言葉で何かを伝えるとき、その人の方を向いて、その人にその言葉が届くように話をします。例えば、下を向いてぼそぼそと話す人の言葉が伝わりづらいことと同じで、音も、届けようと思わなければ届かないのです。その伝え方、届き方は、場所や状況が変わればまた変わりますが、いずれにせよ、伝えようとするのが大事なのです。

私は、なにか発表の機会があったとき、その演奏する上でのアドバイスとして生徒に話すこと、“もし音が見えたら”ということです。音が今日に見えたら、どこにいつているかイメージします。そして、それがなるべく遠くへ届き、その場所全体をその響きで満たすようなイメージをしてみるように伝えます。

それが意識出来た瞬間は、すぐにわかります。そのイメージをたった一つ意識するだけで、その響きは全く違う、より豊かなものになっていくのです。その時、演奏している側は、自分だけの音楽、自分たちだけの音楽だったものが、聴いている人全ての音楽にもなったことを感じます。

しかし、誰も皆、練習してきたことをきちんと完璧にやりたいという気持ちが当然あります。でもそうすると、間違えること＝失敗というイメ

ージになってしまい、その失敗を恐れ、どんどん身体も小さく固まってしまいます。そうすると、せっかくの美しい音も、生まれたと同時に地面に落ちていってしまうのです。

間違えないように頑張る練習することももちろん大切で、それもやらなくてはなりません、それでも私の願いは、言葉と同じように人に音を届け、人との繋がりを感じられること、そしてそれを喜びに感じてほしいということです。

指導者として、そのときどのような言葉をかけるのか、どう伝えるのか、いつも迷いながら言葉を探しています。

音楽専科教員 鈴木 友美

<お知らせ>

・中等部(7年~9年)の下校時間についてです。同好会に入り、放課後活動をしている生徒達の夏季の下校時間ですが、豊浦町内の公立学校の下校時刻に伴い、本校も夏季期間(2学期後半まで)は、18:15完全下校とさせていただきます。尚、高等部に関しては、冬季期間と同様18:15完全下校となります。

・12年生修学旅行のビデオが、以下のアドレスで見られます。クラスで作ったものと、訪問先のYIPの学生が作ってくれたものです。個人でご覧になる他は、広めないようにお願いします。

(<https://goo.gl/Q2HhV9>)

<トーマスから皆さんへ>

約2ヶ月間、ボランティアとして学校に関わってくださったトーマスが、5月30日(水)にドイツへ向けて出発します。タップを通して、様々な贈り物を子どもたちに与えて下さったトーマスの働きに心から感謝したいものです。

また、会える日を楽しみに待ちたいですね。今回、トーマスを受け入れるにあたり協力して下さった保護者の皆さん、この場をおかりして心よりお礼申し上げます。

以下、トーマスから皆さんへのメッセージです。

Two months in Toyoura have flown by.

I didn't know what to expect when arriving at Izumi no Gakko. I wish that I could speak Japanese but luckily we've been able to speak through tap dance.

The students have been so kind to me. It made me smile to see them arrive with both home make

and real tap shoes. Thank you all for your curiosity and eagerness to learn. It has been a joy each morning.

Thank you so much Hiroshi sensei and all the teachers for welcoming me here and especially thank you Uno family for having me in your home these days.

I hope I can visit again one day soon and maybe find some dancing feet.

豊浦での2ヶ月はあっという間でした。いずみの学校に来た最初の頃は、ここのために何ができるか分かりませんでした。私が日本語をもっと話せたら良かったのですが、幸いにもタップダンスを通して話すことができています。

子ども達は、私にとっても親切にしてくれています。子供たちが、手作りのタップシューズや本物のタップシューズで来てくれたこと、微笑ましく思いました。タップを学ぶことに興味と熱心さを持ってくれ、感謝しています。毎朝が喜びです。

私のことを温かく迎え入れてくれた、宏史先生、教師の皆さん、そして特に、私を家族の一員として受け入れて下さった鶴野家の皆さんに、とても感謝しています。

またいつか近いうちにいずみの学校を訪れて、みんなが踊る姿を見られることを願っています。

<今週のメインレッスン>

こどもの園「ちょうちょうのきょうだい」
「おやゆび姫」

1年生	国語
2年生	時計
3年生	言葉/はかる
4年生	人間と動物
5年生	北欧神話
6年生	幾何学
7年生	世界地理(アジア)
8年生	人間生理学
9年生	芸術(透視画法)
10年生	アウトドア
11年生	天文学
12年生	射影幾何学

<今週の校外活動など>

3年生	羊の毛刈り「大滝」(5/24)
4年生	ML「昭和新山熊牧場」(5/22)
10年生	アウトドア 100キロウォーク 「噴火湾」(5/22~5/25)

<今週・来週の誕生会>※カッコ内は誕生日

石黒 理温 (13歳)	5月25日 (5/25)
兼近 桃好 (16歳)	5月31日 (5/19)

<来週の保護者会>

1年生	6月1日(金) 13:30~
-----	----------------